
花唄

花唄

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

花唄

【Nコード】

N3980N

【作者名】

花唄

【あらすじ】

言葉だけで、どれだけ想いを紡げるでしょう。

花唄

ずっと忘れずにいよう、なんて

そんな言い聞かせるようにしなくていい

忘れていても ふとした瞬間、思い出して

そんなふう to 育てていく中に 大切なものもあるはず

長い間、彷徨っている

今も昔も 何かを否定してばかり

今日はどうして 花を見ている

囁くように、愛の唄が

涙と共に ポロポロ溢れて

ほんの些細に心が揺れてて

なんとなく、部屋の模様替えを試みた

こんなことしても 心まで変わらないよね？

『そうでもないよ』と君は笑ってた 瞳を潤ませて

長い間、彷徨っていた

居場所探しに 疲れきってた

君の代わりを探し続けた
何処にもいないと とつくに気付いてた

今日はこうして 花を見ている
哀れむように、通り雨が
乾いた地面に 染み渡ってく

延々と続きそうだった 長い夜が明けて
思いがけず、朝日に希望が見えた
それが馬鹿らしくならないようにと
テレビ付けるの躊躇した

今日はこうして 花を見ている
囁くように、愛の唄が
涙と共に ポロポロ溢れて

今のあなたは どうしてるだろう？
噛み締めるよう、愛の唄を
そつと風に乗せるから

今日もこうして 花を見ている
囁くように、愛の唄が
涙と共に ポロポロ溢れて

M a k e L e g e n d !

遠い未来の話をしてみないか
こんな憂鬱な夜には

今の君や、あるいは僕にさえ
想像付かない次元へ飛び込んで

始めの一步が大事だなんて
誰かが言ってた気がするけど
その一步を踏み出した途端
広い世界が、狭い路地に見えた

それでも歩き出さないと 君に格好がつかないから
どんな形であれ、進んでみるよ
君の手を引いて

僕らはまだ、スタートラインにすら
立つことが出来ずに 足踏みしてるのかも
それでもこんなに心躍るのは
不思議で、不思議で、夢中で走ったよ

遠い未来の話をしてみないか
まだ夜が明けない内に
今の君や、あるいは僕だけの
無限に広がる次元へ飛び込んで

苦しんだ分だけ、楽しめるのなら
悩んだ分だけ、幸せになれるなら
僕らはもうすぐ辿り着けるよね
理想を超えた 遥かな高みへ

まだまだきつと、旅の途中
立ち止まるたび 不安は募るけど
そのたびに君が変化をもたらす
プラス、マイナス、予測出来ない

お墓参りの老婆の背中に
旅の終わりを予感したけど
そんな想いも、一つのパワーに
歯車は回り続ける

悲しみに暮れる道すがら
新たな友が現れる
時が止まった場所にでも
新たな命が芽生えてる

僕らはまだ、スタートラインにすら
立つことが出来ずに 足踏みしてるのかも

それでもこんなに心躍るのは
不思議で、不思議で、夢中で走ったよ

それでもこんなに心躍るのは
君が傍にいてくれるから
ようやく気付いて、ふと立ち止まった僕は
君の目にどう映ってた？

とっておきの決め台詞は
まだまだ言わずに仕舞っておくよ
今はただ、前を見つめていたいから

今はこんなに心躍るから
君も、君も、一緒に行こうよ

誕生日

大切な人が、苦しそうだった
そんな日でも

世界の誰かのHappy Birthday

私は何も出来なかった
そんな日でも

世界の何処かでHappy Birthday

いつもと変わらぬ、退屈な現実
こんな日だけど

今日は私のHappy Birthday

暗がりの中、星も見えない
そんな場所でも

今日はあなたのHappy Birthday

無性に私を壊したかった

そんな日でも

世界の誰かのHappy Birthday

誰かに消えて欲しいと願った

そんな日でも

世界の何処かでHappy Birthday

明日なんて来なくていい

そう思ってたけれど

明日は誰かのHappy Birthday

怒り、憎しみ、悲しみ

積もり積もった闇の中で

ぶっくらぼうに呟いた

Happy Birthday to you

Happy Birthday to you

ありがとう

ごめんなさい

おめでとう

おやすみ

I and time

昨日はあんなに遊び回った
意味無いことで笑い合ってた

なのに今日は、眠りたくない
とにかく時間を無駄にしたくない

どういう風の吹き回し？
どっちが本当の自分なんだ？

現在時刻を確認するたび
なんだか、やる気が失われていく

マイペースを気取る自分が
誰より焦ってばかりいる気がする

やっぱり私は、こんな人間？
いつかの私は、ニセモノだった？

自分で自分を見つめることは
結局いつも時間の無駄

答えが出ても、出なくても
一時しのぎしかない

ありふれた歌詞の一文

『そのままでもいい』なんて言葉で
単純に頷ける私じゃないんだ

思えば、悪くない人生

いつかそう思える日が来る

だから今は ややこしい事考えず

ありふれた困難と向き合っていけばいい

私なりに、精一杯歩んだ人生

そう思えてるから

タイムマシンで過去に戻れても

私はきっと 何かを変えたりしないだろう

ファンタジスタ

隣の部屋にいるのが 大嫌いなアイツだとしても
希望を捨てるのはまだ早い
君ならきつと、夢を描けるさ

荒れ狂う波に揉まれても
電柱みたく、ひっそりと立ち続けて
凍て付くような吹雪の中で
大きなヒマワリを咲かせよう

捻くれ者というのなら 僕だってお互い様さ
誰が褒めるものでもないけど
僕と君が描く物語 静かに刻んでいく

すぐ傍にあるはずなのに 決して手は届かなくて
いつまで経ってもゴールが見えない
だからこそ、夢を繋がなくちゃ

荒れ狂う波に揉まれたら

ただただ、流されるのもいいじゃない
穏やかな初秋の風を受け
水辺に咲いたコスモス揺れる

捻くれるのに少し飽きたら 何処か遠くへ遊びに行こう
誰も居ない場所がいいかな
ざわめく気配と君を感じて 新たな魔法を覚えたい

誰が褒めるものでもないけど
僕と君が描く物語 静かに刻んでいく

誰かに伝わるものじゃなくても
僕と君が育む愛を 確かに刻んでいけばいい

ざわめく気配と君を感じて
輝く未来と君を重ねて 新たな魔法を覚えたい

煌めき

何をしているか分かってくれる人は
いくらでもいるというのに

どんな気持ちなのか分かってくれる人は
こんなに少ないものなんだね

顔も名前も知らない 家族でも恋人でもない
そんな誰かを想う気持ちは
傍から見れば、つまらないものかな

あなたは星のような人だと
ある時、ふと思った

それを目印にして歩いてみたり
ただジッと眺めてみたり
特に気にならず、日々を過ごすこともある

もっと近くにいてくれればと 願う気持ちもあるけど
でも、このぐらいでいいのかもしれない

突然に煌めいて、目をやれば 小さな光が心に舞い降り
今日を生き抜く力を見い出す
大丈夫、これからだよ

過酷な運命を歩み続ける人に
どこか羨ましさを感じてる
自分がどれだけ不幸であるかを
誰かに認めてほしいのだろう

極端なものに目を奪われては ささやかな喜びを探す日々
始まりの合図を鳴らしてみよう
今日でも明日でも、これからすぐにでも

あなたが星のように輝く時
私はなんて小さな旅人

心の渇きが垣根を越えれば
近くのものに当たり散らして
怒りの感情が静まれば、空しさが込み上げる

こうしてまた、今日を生きてゆけるのならば
そんな自分でいいのかもしれない

突然に煌めいて、目をやれば あなたの光が心に舞い降り
明日を信じる力となるから
大丈夫、これからだよ

青春見聞録

この先のこと、将来のこと
とつてもとつても気になります
気にしなくちゃと思います

けれど、今しか出来ないこと
今しか感じれないこと
その魅力に打ち勝てないので

妄想ばかりしてる内に
いつの間にか、季節は変わりゆき
あなたとの距離は縮まらず
また今日も、ちっぽけな希望で乗り切ります

言葉に力があるんじゃないか
それを聞く誰かに力があるんだね
あなたの他愛ない一言、こんなに大きなエネルギーに出来る
私って凄くないかなあ？

始まったり、終わったり

せわしない日々が続きます

いろんなものが、不安定に思えます

まずは、今しか出来ないこと

明日じゃ間に合わないこと

それからやっていきたいのです

子供心に、強く強く響いた感動

それを大人は、どうして恥じるのでしょうか？

あなたにだけは伝えたい

汚れた箱に詰め込んだ 脆く儚いこの想い

言葉に力があるんじゃない

それを聞く誰かに力があるんだね

あなたのさり気ない一言、今日もそれを聞きたくなって

無情な荒野も駆け抜けます

言葉に力があるんじゃない

それを聞く誰かに力があるんだね

あなたの他愛ない一言、こんなに大きなエネルギーになったよ

好きになればなるほど 何も出来ない私だけど

期待と不安と感謝を込めて

今、伝えようと思います

大好き！

クリスマス・ソング

真冬の朝 いつもより30分遅れ
寒空に浮かぶ太陽は どこか寂しそう

孤独を楽しむ才能だけは 誰にも負けない自信あったのに
最近じゃ、そうも言ってられないや
誰が恋しいかも分からないほど
人恋しさに溺れそう

今宵も雪は降りませんか？
密かに期待しているのだけれど
スペシャルな気分には
まだまだ、なれそうもないなあ

君は誰と幸せを過ごすの？

街のイルミネーションが騒ぎ出す
静かなお祭り、始まっている
あの頃と違う僕と君
少し寂しいメリークリスマス

真冬の夜 吐く息は白く切なく
寒空に浮かぶ星たちに 願いの一つでも

サンタクロースは奮闘中

きっと今頃、どこかで愛を振り撒いてる
なんて思いながら 窓の外を見てた
もうプレゼント届いてること 後になって気付いたよ

夢見る気持ちをありがとう

街のイルミネーションが踊り出す

静かなお祭り、続いている

あの頃と違う僕と君

少し悲しいメリークリスマス

雪が降らなくなっちゃって 寂しがることないんだよ

君の心に、不思議な あったかいあったかい雪を降らせるから
それが積もり積もった頃

僕らはきつと、夢で巡り逢うんだ

そんな奇跡を信じてくれる？

街のイルミネーションが微笑んでる

静かなお祭りもクライマックス

あの頃と違う僕と君

少し寂しいメリークリスマス

あの頃を想う僕と君

心の隅に変わらぬ温もり

永く優しいメリークリスマス

夢の跡

いつだったか 遠い世界の
とてもとても可哀想な人を知った
ちよつとは悩んだりした すぐに気にしなくなったけど

今の僕はその人と
同じような道を歩んでいる
驚くほど突然に
でも、不思議なくらい自然に

これが運命なんだろう
そう呟いて、何度も諦めてた
それはつまり 何度でも立ち上がりたかったってこと

当たり前のように くだらない友達がいて
当たり前のように うつとうしい家族がいて
いつの間にか、忘れてしまったんだ
それを失うことの意味を

崩れきった夢の跡には

誇れるものが何もなくて

また一つ、僕は臆病になってしまう

崩れきった夢の上にも

果てしない大空が広がっている

もしも、それさえ見えなくなったら

瞳の奥に 君の勇姿でも浮かべようか

Sign

ああ、どうしてだろう　こんなに穏やかな時間さえ
もうすぐ訪れる悲しみのスパイスだなんて
そんな風に考えてちゃ　生きるのもイヤになる
わかってはいるけど

今すぐに届けとは言わないけど
僕の感謝してる人　好きな人
このサインに気付いてくれたなら
少しだけ、僕のこと思い出してほしい

それとなく言葉を交わして
ほんのちよつと気持ちを汲んでいたら
大袈裟かもしれないけど　そこに愛は芽生えてる気がするんだ

いつも理屈を付けたがる君と僕でも
ふとした拍子に感じてきた筈
誰かを愛しく思うこと　それに資格なんていらないこと

ああ、どうしてだろう　こんなにやるせない時間さえ
いつかは訪れる幸せのスパイスだろうって
そんな風に思えたなら　まだ生きていけるよね
まだまだ、この先も

今すぐに届けとは言わないけど

僕の感謝してる人　好きな人

このサインに気付いてくれたなら

少しだけ、僕のこと思い出してほしい

そのうち陽は昇るだろうって

無理な笑顔で闇から目を背けてみても

ちよっとまだ晴れそうもないよね　君の心の空は

いつも自分を責めたがる君と僕でも

きっともう、感じてる筈

僕らは誰より優しくって　そして、誰より臆病者なんだ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3980n/>

花唄

2011年10月9日23時16分発行